

屋外運動場の砂じんの実態調査およびその軽減法に関する基礎的研究

(昭4)-アンケート調査(2)-

正会員 川崎浩司 同 早川一也 同 三上力 同 山本慶
 正会員 ○山本俊雄 同 藤井修二 同 原田博司 同 久保清志

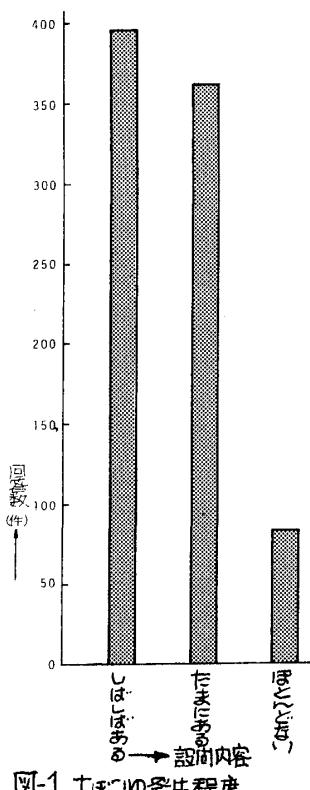
I) まえがき: 本報告は前報(その3)に引きつづきアンケートの結果について報告する。

II) アンケート調査結果: (1) 土ぼこりの発生・風環境について・土ぼこりが気になるかをまとめた図-1に示すように、約90%を超える回答者が気にしている、学校から100m以上を超えたところでも多い、これは図-2にもみられるように、運動場以外での発生源によるものと考えられる。土ぼこりの発生している場所については図-2に示すとおりであるが、隣地又は空地が半数以上であり、次いで校庭、道路の順であった。これは全体の約70%をしめている。このことは、アンケート対象地域に新規住宅地が多く、畠や宅造地などまだ残っているためである。また既成市街地内にある場合には学校の校庭または他のクラウンドが唯一の発生源であると考えられる。また、土ぼこりのみならぬ季節については図-3に示す。これより、発生するのは春が一番多いが、その時の風向については、かなりまちまちの回答となっていたのが特異である。ちなみに図-4には小学校のまわりでの年齢生方向の回答を図示したものがあり、各回答者が周囲の家並などの影響を受けて風を主方向として意識していることがある。

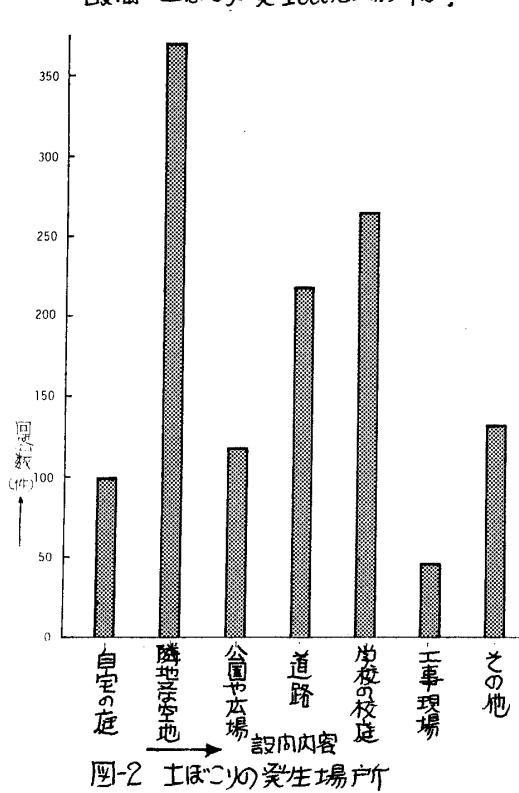
(2) 土ぼこりの影響について・図-5,-6,-7は学校校庭からの距離別にみた屋外・屋内での土ぼこりの目につくところ、また、影響さらに程度についてそれを示してある。図-5,-6より100m以内では、目に土ぼこりが入る、洗濯物がよごれるという回答が15~20%という高い率をしめしていた。影響の程度については室内がざらざらする、雑巾がけ・掃除の回数がかかるという回答が多い。

(3) 土ぼこりの対処方法・全体的にみるとならば家族間または近所で話題にする程度であるが、土ぼこりの有無でしづしづあると答えた比率の高い地域では他の地域に較べて関係者に訴えたいと思ったり、實際訴えたいという回答がある。また實際の対処方法であるが一番多いのが窓を開けないことであり、次に家の周りに水をまくたり洗濯物を家の中に干す程度である。

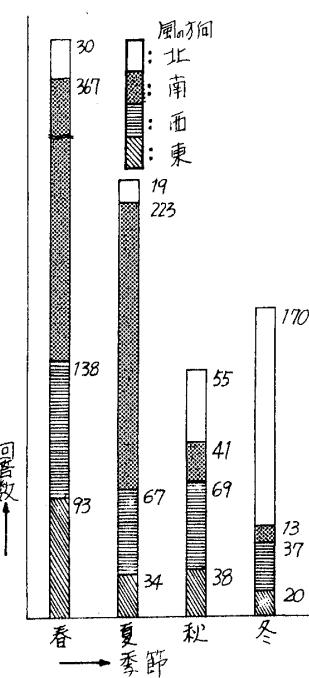
設問: 土ぼこりが気に入るか?



設問: 土ぼこりが発生している場所は?



設問: 土ぼこりの見られる季節は?



設問：家の周辺の風向は？

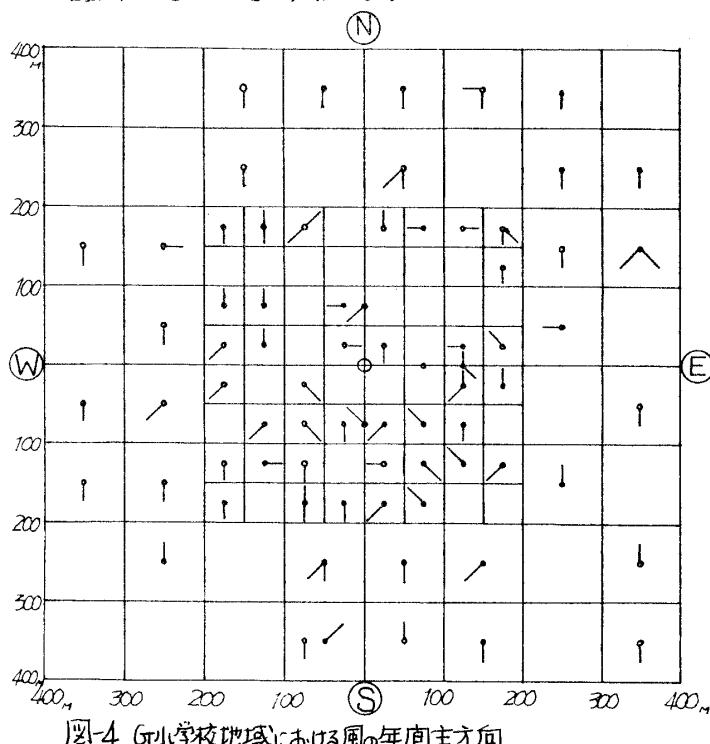


図-4 G小学校地域における風の年向主方向。

(4)屋外運動場の表層

校について・図-8

に回答結果を示す。

発生源の運動場の比

率は高く気にしてい

るにもかかわらず土

・芝生・アスレチックの順であ

る。これは運動するに

は体験的に土が良い

と考えているためで

あろう。Ⅲ)まとめ：

ほとんどの人が土ほ

こりを気にしており、

設問：土ほこりの影響は？

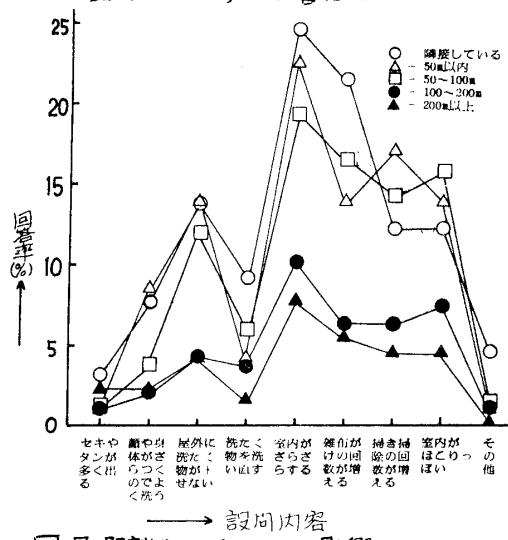


図-5 距離別による屋外での土ほこりの目につく状況

設問：屋内での土ほこりの目につく状況は？

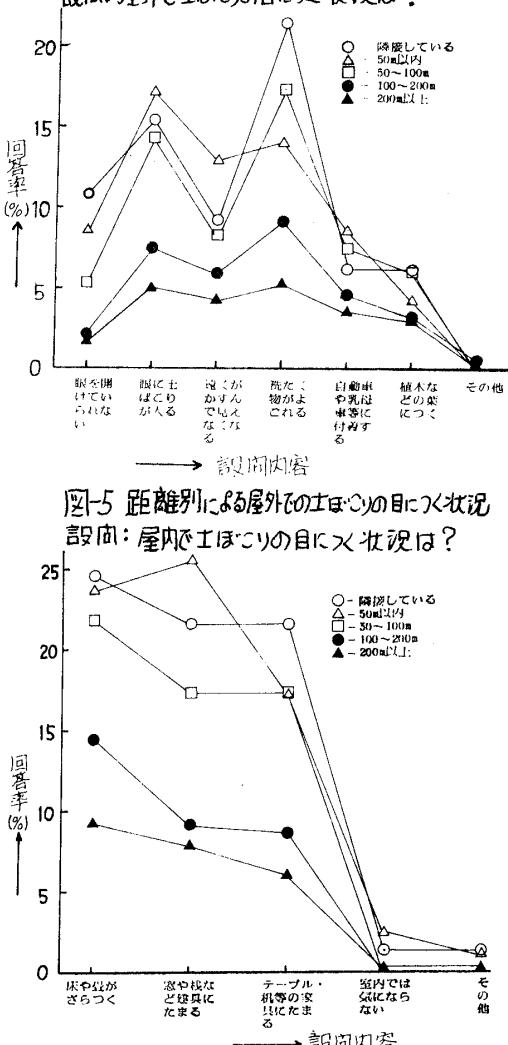


図-6 距離別による屋内の土ほこりの目につく状況

設問：屋外運動場の表層校は？

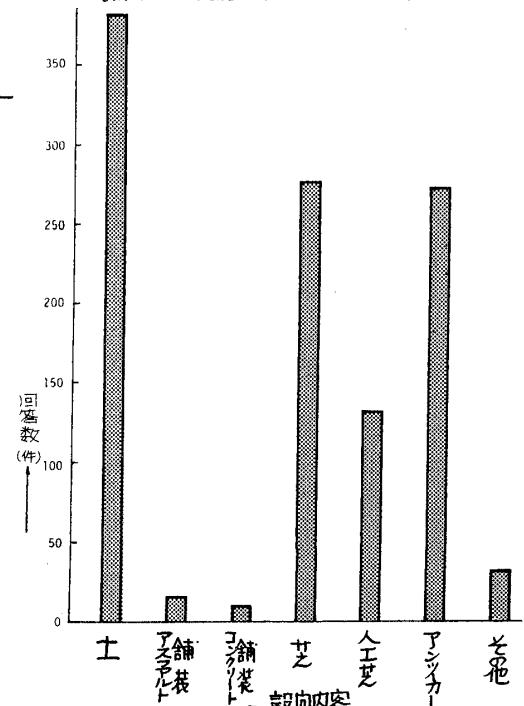


図-8 屋外運動場の表層校

*: 神奈川県立大学 **: 東京工業大学 ***: 東京建研(株) 著者: ニクル・ホーリー(英) ****: 金沢工業大学